

4. マンナ MANNNA 子ども食堂

記録：小瀧一誠

場 所：名古屋グレイスキリスト教会の集会室（名古屋市西区八筋町 291 番地）
対 象：こどもから大人まで
参加費：小学生 無料、中学生 100 円、高校生以上 300 円
代 表：藤田 恵子さん
主 催：マンナ MANNNA 子ども食堂プロジェクト
初 回：2017 年 1 月 25 日（水）17：30～19：30 毎月第 4 又は第 5 水曜日に開催

参加日時：2016 年 12 月 23 日（金）11：30～13：00（ボランティア 10：00～）
（今回はプレオープン）

参加人数：こども、大人含めて 63 人 ボランティア 21 人

献 立：クリームシチュー、ごはん、サラダ、バナナ、クリスマスゼリー

参加者：小瀧一誠、井上実

<マンナ子ども食堂に掲載してあったプリントから>

◎設立の趣旨

近年、子どもの貧困、生活困窮者児童などが増えている現状の中で、地域の子どもたちに食事を提供し、地域の人たちと共に過ごせる場所として「子ども食堂」が全国的な広がりを見せています。特に、経済的な事情や家庭の事情などで食事が充分にとれていない子どもたち、1人で食事する孤食（寂しい食事）など子どもと大人の方々のために食事を提供する「子ども食堂」は全国で300ヶ所ほどあります。愛知県には11ヶ所あります。

名古屋グレイスキリスト教会は地域に開かれた教会として、少しでも地域に用いられるための地域コミュニティの交わりの場を提供し、「食」を支え合い、心身ともに健康で安心安全な居場所づくりを目指して「マンナ MANNNA 子ども食堂」を設立しました。

◎マンナ MANNNA 子ども食堂について

名古屋グレイスキリスト教会が主催・プロジェクトとなっており、営利事業ではありません。但し、名古屋市、西区役所、山田支所、山田学区、中小田井学区、山田小学校、中小田井小学校、山田中学校、山田高等学校、大学、幼・保育園、西保健所、社会福祉協議会、西警察署、西消防署、及び料理学校、民間企業、フードバンクなどに支援・協力をお願いしています。また、名古屋グレイスキリスト教会のメンバーによる奉仕・ボランティアの他に、地域及び学生のボランティアの方々を募集・協力をお願いしています。

◎名古屋グレイスキリスト教会について

新しい希望との出会い、グレイスで憩う名古屋グレイスキリスト教会は1989年、スウェーデンの宣教師が名古屋で開拓伝道したのが始まりです。現在、藤田耕史牧師を中心に100名強のメンバーが在籍しています。日本福音教会（JEC）に所属するプロテスタント教会です。今年で設立22年目です。

メンバーは栄養士、調理師、介護師、大学教授、教師、保育園長など教育指導者、プロのピアニスト、ゴスペルリーダーなど音楽賛美者、その他各種のスキルを持った方々からサラリーマン、専業主婦の方々や子ども達など、老若男女あらゆる顔ぶれで構成されています。

<インタビュー>

◎きっかけ

2016年5月ごろにテレビを見て子ども食堂の存在を知った。教会には場所と道具があるので自分たちにもできると思った。持っている資源やノウハウを地域で活かしたいと思い活動を始めた。開催すると決めてから、9、10月にわいわい子ども食堂とガンダム子ども食堂に見学に行った。わいわい子ども食堂を見て、部屋の作りが似ていると感じ、自分たちにもできるという思いが強まった。名古屋グレイスキリスト教会がある地域には小中高すべてがあり、子ども食堂を開くには最高の場所。西区の周りに生活困難者がいるのかは分からないし知らない。MOZOの周辺に住んでいる人々はとてもお金に困っているようには見えない。そのため、貧困対策については考えていなかった。孤食の話はよく聞いていた。生活のレベルをキープするために収入を上げようと働き、そのため共働きの世帯が多く、子どもと一緒に食事をする事ができていないのではないかと活動を始めてから思うようになった。教会が地域で自由に使える場所（家、学校に次ぐ第3の場所）になればいいと考えている。

◎対象

参加対象は絞らず、子ども食堂を必要としている子どもに届けばと思っている。こどもだけではなく、親のフォローも必要だと思っている。子どもの生活環境、その周りにいる人々も支えたいと考えている。

◎資金

運営資金は教会の子ども食堂指定献金および寄付金より賄っている。開催するにあたり教会で募金をして18,000円集まった。そのお金で食材を購入。かかるのは食材費だけだったのでお金は余っている。さらに、今回の参加費も加算されるので金銭的な余裕がある。来春よりNPO法人の申請を行う。

◎運営

教会の人のサポートがある。いろんな人がいるので何か始めようと思えば何でもできる。代表は藤田さんだが日中は福祉の仕事で忙しく、杉本さんという方が中心になって動いている。地域への呼びかけ、学校や自治会、社協への主旨の説明、手続きなどを行ってくれた。西区（山田小学校の地域、中小田井）は自治会が強いのだが、話に行ったら意外と協力的でそれぞれ30枚ずつチラシがほしいと言われ、回覧板に挟んでくれた。子ども食堂に対して行政が協力的。認知度が高まっており、人々の受け入れ、反応がすごく良い。「良いことをやっている！」という意識がある。子ども食堂を始めるにあたって社会福祉協議会から「助成金がありますよ。」という電話があった。普通、助成金は手続きに行き申請してもらえるものなので、向こうの方から連絡があったことに驚いた。子ども食堂に対しての世間の意識の違いを感じた。今回のボランティアはプレオープンなので教会のメンバーが多いが、今後

は声掛けをして集めていく。

栄養士が 2 人在籍している。地域の保健所によって対応が違い、西区の保健所は衛生面に対して対応が緩い。

◎食材、メニュー

60 食用意。お米は 4 升炊いた。お米は家で余っている人からのいただきもの。家で余っているものをボランティアのメンバーが多少持ってきてくれたが、食材はほとんど購入した。今後、フードバンクに声掛けをしようかと考えている。名簿にアレルギーについて記入する欄があり、アレルギーのある子には連絡先を書いてもらう。おかわりは何でも OK。今回は忘れていたが、お菓子を持っていってもらう予定だった。このお菓子は、教会にお菓子の卸しをしている人がおり、その人からの寄付。

メニューは増減のしやすさと、食材をあまり選ばないものを意識して決めている。

◎宣伝

20, 22 日に学校の前でビラ配りをした。それを見て来ていた子が何人かいた。学校の掲示板に校長先生がチラシを掲載してくれており、学校がとても協力的。他に、回覧板にチラシを挟んだり、教会の HP、Facebook でも告知している。

◎課題、悩み

参加人数が読めないことが悩み。食事をどれだけ準備していいのかわからず、先着順も少し考えたが、数に限りやを設けると来る人にとってプレッシャーになって来にくくなるのではと思いやめた。また、もともと毎週日曜日の昼に教会のメンバーと食事をしており、その時も何人来るか把握していないがなんとか食事の準備をできていた。その経験があるので先着順はやめようと思った。

これから子ども食堂が地域にどのように広がっていくのか。トワイライトスクールで活動している教会のメンバーに、小学校 4 年生で九九を言えない子が何人もいると聞いた。九九くらいなら教えてあげられるし、宿題を見てあげる時間を取り入れられたらよいと思う。

◎感想

初めての開催だったがお手伝いも子供たちもたくさん来ていた。他のところに比べて若いボランティアの方が多く、明るく活発な雰囲気だった。

ごはんができるまでの間、別の部屋の遊ぶところや食事の貰い方など、わいわい子ども食堂と似ているところが多かった。他のところの良さを自分のところに取り入れていいなと思った。

◎写真

